



面接・政経・健診

第一回目の面談を始める。とはいっても去年の続きなので、現在の第一志望を確認した上で、現在の生活の様子や自選科目のこと、自分で勉強する体勢ができていないか（自勉する場所やその環境など）、また、現在困っていること・悩んでいることがないかといった点を聞いてみようと思っている。10分枠と20分枠を用意したので、もしじっくり相談したいことがあれば、20分枠の活用を。

*

3年生で新しく取り組むことになった授業としては「政経」があるが、どんな感じだろう？ 学級日誌には、憲法や法律について学んだ日の感想の欄に、「話が面白い」と記されていた。憲法や法律に関する話が面白かったのか、それとも雑談が面白かったのかは分からないが（笑）、それなりにしっかり学んでいるようで何よりである。前に書いた通り、君たちもいよいよ有権者になるわけだし、政治経済について知っておくべきことは沢山ある。社会人としての常識を高める上でもしっかり授業に臨もう。

……などというようなことを、なぜ今話題にしているのかというと、政経は入試で選択する人が少数派であるために、入試が迫ってくるにつれ、授業に対するモチベーションを維持することが難しくなるからである。それ故、教える側としても（例えば、あのO本先生であっても！…）それなりにやりにくい科目なのである。

しかし、定期考査があることを考えると、その考査前の学習時間をなるべく短縮するためにも、授業の場で教科書に印をつけたり、ノートを分かりやすくまとめたり、さらに考

査に出そうなどにはマークしておいたり、授業時間を生かす工夫をすべきだろう。

入試に受けるためには、先ずそれぞれの大学に出願することになるが、その出願書類に添付する「調査書」は、卒業見込みが立たないと発行してもらえない。だから、定期考査をバカにしていると、とんでもないことになるのである。調査書を発行してもらうために、補講を受けたり追試を受けたりしないですむように、日常から着実にやるべきことをやっておくことが肝心である。先生の目を気にしながら集中できない内職をするよりも、その時間内に覚えるべきことは覚えるつもりで授業を活用した方が、結果的にははるかに効果的であることを認識しよう。

というわけで、政経で入試を受ける人がベストな授業を受けることができるように協力するのはもちろんだが、それが結果として、小論文や面接での話題に結びつく、貴重な話題と出会うきっかけとなるかも知れないわけだから、O本先生がご機嫌良く授業を進め、その結果たくさんの有益な雑談をしていただけるような教室の雰囲気作りを、全員で心がけたいものである。

*

ちなみに、調査書には健康診断の結果を記載する部分もある。その意味では、26日（木）の健診をしっかり受けておくことも重要。もしその日に休んでしまうと、自分で保健所などで健診を受け、その結果を提出してもらうといったことにもなりかねないので、今さら無理なダイエットなどに挑戦するのは諦めて（笑）、体調を整えて健診に臨もう。